

9年間を見通した教育課程に基づく小中一貫教育の推進

～各教科の系統表の作成を通して～

長沼町立長沼中学校 学級数 12 (校長 渡辺 禎)

I 実践テーマの趣旨

本町では、昨年度、町内の小学校5校が統合したことを受け、小中一貫教育の取組を開始した。取組の1つとして実施している小中合同研修会において、小・中学校の全教職員が「9年間で育成を目指す長沼の子ども像」の共有化を図るとともに、各学校において、義務教育9年間を見通した教育課程を編成・実施し、系統的教育活動を推進している。

II 実践の概要

1 9年間を見通した教科系統表の改善・充実

昨年度は、算数・数学科における9年間の教科の系統性を踏まえた指導計画を作成するとともに、今年度は、全ての教科で系統表の作成を行っている。

作成した系統表については、各種調査結果や合同研修会の機会に改善・充実を図ることができるよう工夫している。



【算数・数学科の系統表（一部抜粋）】

(1) 各種調査結果の活用

5教科は系統表の中にNRTの結果を記入するよう工夫し、つまづきのある分野・領域を定期的に把握し、重点的に指導する領域の明確化や指導計画、指導方法の改善につなげている。

(2) 学校運営協議会や小中合同研修会の活用

昨年度から、小中合同研修会を定期的に開催し、「9年間で育成を目指す長沼の子ども像」の共有化を図り、長沼町学校運営協議会とも連携して、「長沼町小中一貫教育グランドデザイン」を作成するとともに、教科系統表の作成に向けては、先進地域の取組や学校運営協議会の意見を参考に教科部会で検討・作成が行われるよう工夫を図った。

2 小中乗り入れ授業の実施

(1) 小中一貫教育サポート事業の活用

昨年度から、道教委の「小中一貫教育サポート事業」の指定を受け、加配されている中学校数学科の教員が、小学校第6学年の算数科の授業を担当し、教科の専門性を活かした授業を実施している。

また、小学校段階で中学校教員による授業を経験することで、中学校生活への不安を軽減することにもつながり、「中1ギャップ」の解消に効果が見られた。



【中学校教員による算数科の授業の様子】

(2) 小・中学校相互の乗り入れ授業の実施

小学校全学年の体育科や中学校第1学年理科の一部の単元において、小・中学校相互の乗り入れ授業を行い、個々の教員の専門性を生かした授業実践を行っている。小・中学校担当の乗り入れ授業により、共通した児童生徒理解に基づく学習指導が進められるようになり、学力向上はもとより、教育課程の改善につながった。

3 組織を活かした小中一貫教育推進

管理職を含む長沼町小中一貫推進会議が中心となり、小中一貫教育を推進する他、小・中全教職員が課題別部会と教科部会に所属し、教科系統表の作成や9年間を見通した学習や生活のきまりの作成を行っている。組織的な取組の推進により、地域の期待に応えようとする教職員の意識が高まり、参画意識の向上につながっている。

III 実践の成果

○ 「9年間で育成を目指す長沼の子ども像」が共有化され、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力が明確化されたことにより、9年間を見通した教育課程の改善・充実につなげることができた。

● 今後は、総合的な学習の時間や特別活動において教科横断的な視点による教育課程の改善を進めるとともに、乗り入れ授業のさらなる充実に向けた日課表の改善などを進めていく必要がある。